



2026年6月9日

各 位

会社名 株式会社石井表記  
代表者名 代表取締役 山本 晋宏  
(コード：6336 東証スタンダード)  
問合せ先 常務取締役 松井 忠則  
管理本部長  
(TEL 084-960-1247)

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）

当社は、2026年6月9日の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現への対応について、現状を評価し、改善に向けた取組状況をアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）」をご覧ください。

以 上

# 資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について (アップデート)

2026年6月9日

株式会社石井表記

## 1 各指標の推移(連結)

| 項目             | 2022/1期 | 2023/1期 | 2024/1期 | 2025/1期 | 2026/1期 |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 当期純利益 (百万円)    | 1,490   | 1,639   | 1,101   | 788     | 890     |
| ROE (%)        | 32.6    | 25.5    | 13.7    | 8.6     | 8.7     |
| 1株当たり純資産額 (円)  | 670     | 910     | 1,065   | 1,195   | 1,333   |
| 株価 (円)         | 755     | 677     | 716     | 514     | 738     |
| PBR (倍)        | 1.1     | 0.7     | 0.7     | 0.4     | 0.6     |
| 1株当たり配当金 (円)   | 10      | 10      | 15      | 20      | 28      |
| 配当性向 (%)       | 5.5     | 5.0     | 11.1    | 20.7    | 25.3    |
| PER (倍)        | 4.1     | 3.4     | 5.3     | 5.3     | 6.7     |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 183     | 201     | 135     | 97      | 111     |

## 2 現状分析と評価

### (1) 株価とPBR

足元では株価は上昇基調にありますが更なる企業価値の向上に向けて以下の事項が課題であると分析しております。

#### ①収益性(ROE)の低下【※】

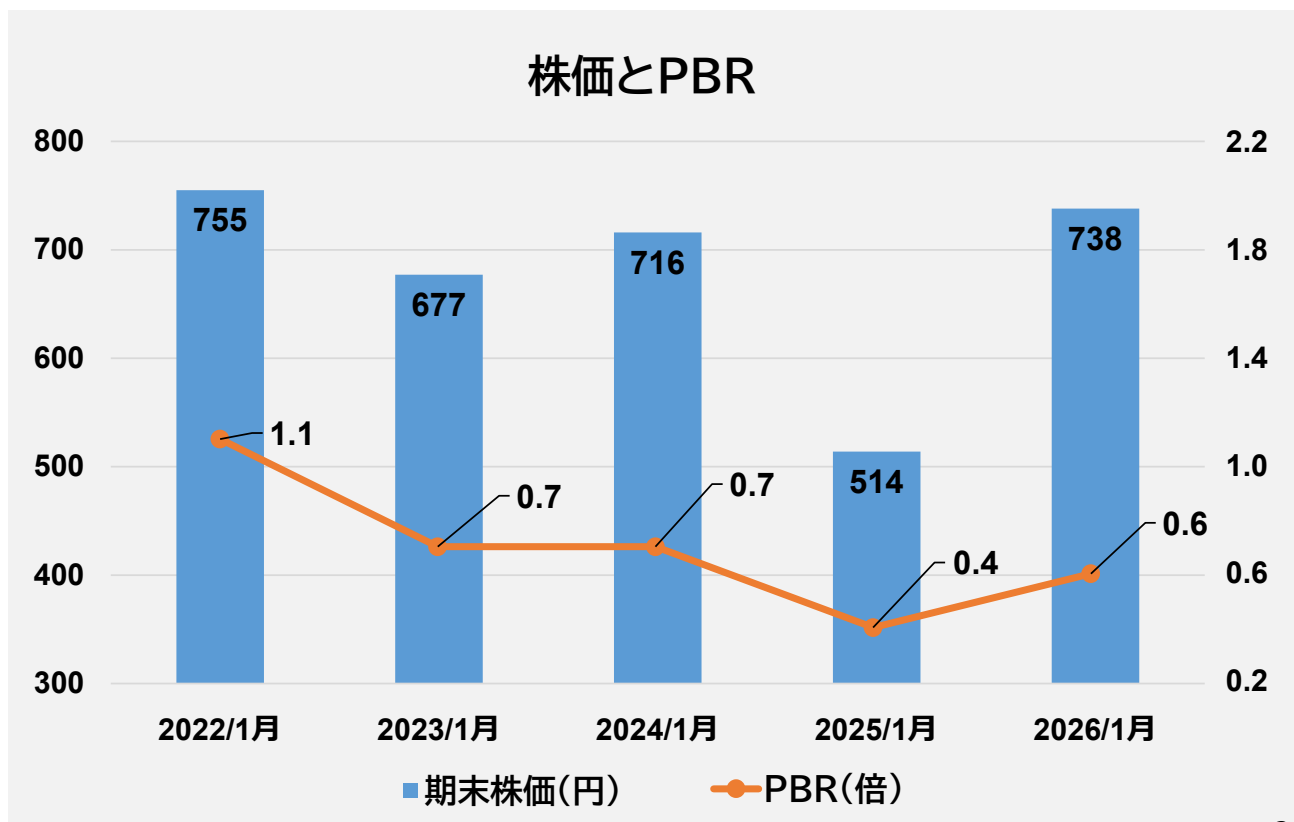
一定の利益は確保する一方で収益性(ROE)が低下傾向にあり直近事業年度では当社の推定する株主資本コストを下回る結果となりました。

#### ②株主還元充実の必要性

ここ数年では連結配当性向の数値を高め、自己株式の買い付けも実施しております。今後も株主還元の充実を図っていきます。また安定的な利益配分の実施をより明確にするため、定量目標(連結配当性向30%を下限目安)を設定いたしました。配当方針の変更につきましては本日(2026年6月9日)公表いたしました「配当方針の変更に関するお知らせ」をご覧ください。

| 項目      | 2022/1期 | 2023/1期 | 2024/1期 | 2025/1期 | 2026/1期 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 期末株価(円) | 755     | 677     | 716     | 514     | 738     |
| PBR(倍)  | 1.1     | 0.7     | 0.7     | 0.4     | 0.6     |

※数値は各年度の期末日時点



## 2 現状分析と評価

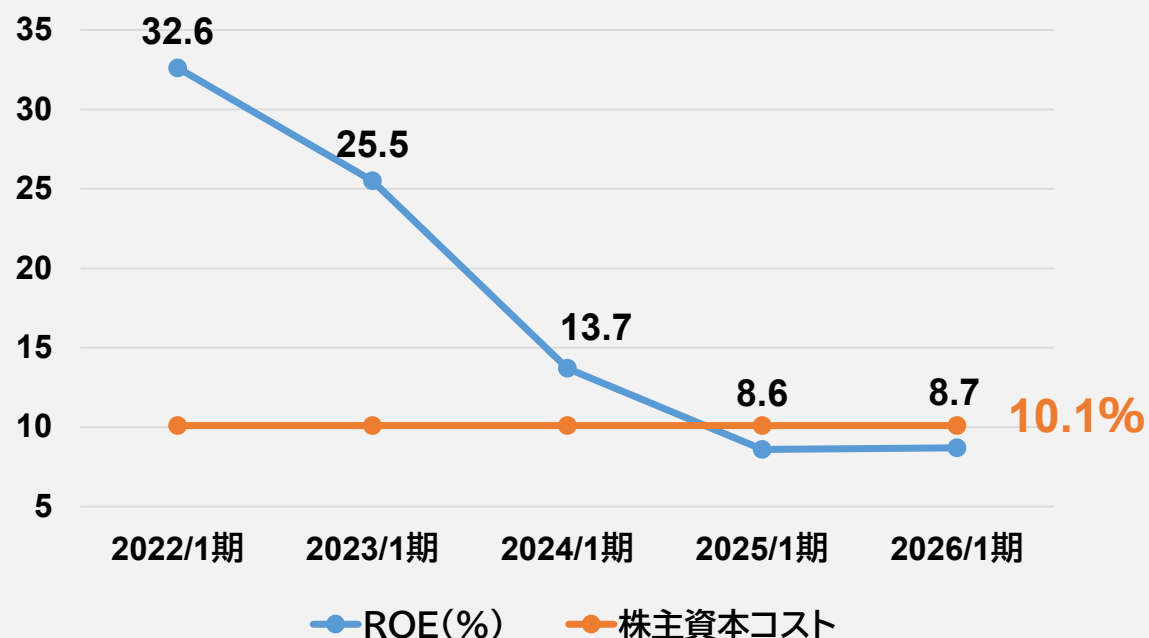
### 【※】 ROEと株主資本コスト

直近5年間の当社グループのROEは32.6～8.6%のレンジで推移しております。

当該指標は低下傾向が続いており2026/1期では当社の推定する株主資本コストを下回りました。

当該指標を向上させ更なる企業価値の向上を図りたいと考えております。

### ROEと株主資本コスト



### 株主資本コストの推計方法

株主資本コスト CAPMによる算出で**10.1%**と推定

(2026年1月末時点)

リスクフリーレート  
2.24%

+

β値  
1.31

×

市場リスクプレミアム  
6.0%

=

株主資本コスト  
10.1%

### 3 改善に向けた方針、目標

ROEの向上、IR活動の拡充、株主還元の充実に取り組み、PBRの更なる向上を目指します。

#### (1)ROEの向上

各施策を実施しROEの向上を目指します。

#### ROE分解

【収益性】

【資産効率性】

【財務レバレッジ】

$$\text{ROE} = \frac{\text{純利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{総資産}}{\text{自己資本}}$$

売上高純利益率   総資産回転率   財務レバレッジ

| 項目          | 2022/1期 | 2023/1期 | 2024/1期 | 2025/1期 | 2026/1期 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| ROE (%)     | 32.6    | 25.5    | 13.7    | 8.6     | 8.7     |
| 売上高純利益率 (%) | 10.3    | 9.0     | 6.6     | 5.3     | 5.7     |
| 総資産回転率 (回)  | 1.1     | 1.2     | 1.0     | 0.9     | 1.0     |
| 財務レバレッジ (倍) | 2.8     | 2.3     | 2.0     | 1.8     | 1.6     |

10.3%~5.3%と、最も振れ幅が大きい  
収益性の強化が最も重要な課題と認識


### 3 改善に向けた方針、目標

#### (1)ROEの向上

##### ROE向上施策の進捗状況

| 取組と目標(25年6月公表)                  | 進捗状況、今後の対応  |
|---------------------------------|---|
| <b>【収益性】</b>                    |   |
| ●グループシナジーによる販路拡大を目指す            | 中国子会社の取引関係を活かし、中国での車載部品販売、日本国内における印刷製品の新規顧客開拓を進めております。ロットの少ない電子部品実装案件を国内移管して中国子会社の生産性を向上させています。 |
| ●営業所統廃合による販売体制の効率化              | 2025/1期以降デバイス事業本部の5つの営業所を閉鎖し事業本部固定経費の削減、営業管理事務の集約、人員の削減を実行しております。                               |
| ●将来成長が期待できる分野への参入を目指した研究開発活動の継続 |   |
| ① 自動車産業への意匠性の高い車載部品提案           | 国内メーカーに加え、中国、インドへの販売に向けて活動しております。   |
| ② インクジェット塗布技術の液晶以外の分野への展開       | 電子デバイス関連、車載関連分野において顧客ニーズに沿った試作機を販売することで量産機受注に繋げるべく活動しております。                                     |
| ③ 半導体関連部品やその他電子部品向けの研磨材、研磨装置の開発 | AI関連で需要の高まっているパッケージ基板向けに、より高精度の研磨を実現するために研磨材の改良を実施。研磨機についても開発を進めております。                          |
| ④ 高機能材料向けメッキ設備の製品ラインナップ拡充       | 顧客ニーズに沿った製品を開発し、販売実績をあげております。   |

### 3 改善に向けた方針、目標

| 取組と目標(25年6月公表)                         | 進捗状況、今後の対応   |
|--|--|
| 【収益性】                                  |  |
| <p>●人的資本経営の推進</p>                      | <p>社員が安心、安全に働ける職場環境実現を目指した取り組みを続けております。<br/>2026/1期は当社において経済産業省が制度設計を行い日本健康会議が認定する「健康経営優良法人2025(中小規模法人部門)」に初認定されました。</p>  |
| 【資産効率の改善】                              |  |
| <p>●遊休資産の売却、棚卸資産の圧縮</p>                | <p>統廃合して遊休資産となった旧営業所を売却、タームローン314百万円を早期返済して負債を圧縮しております。今後も遊休資産の処分、適正在庫の維持(棚卸資産の圧縮)を検討していきます。</p>   |
| 【財務レバレッジの改善】                           |  |
| <p>●株主還元の向上<br/>●成長投資には有利子負債の活用も検討</p> | <p>増配、自己株式買付等の株主還元を推進しましたが、それ以上に借入金の圧縮が進んだことなどから当該指標は低下しました。今後も財務の健全性を維持しながら積極的な株主還元を図るとともに成長投資には有利子負債の活用を検討していきます。</p>  |

### 3 改善に向けた方針、目標

#### (2)IR活動の拡充

株主、投資家向けにIR活動を強化、低い水準で推移しているPERの向上を目指します。

| 取組と目標(25年6月公表) | 進捗状況、今後の対応   |
|----------------|--|
| ●個人株主向け工場見学会他  | 制度化している個人株主様向けの工場見学会を実施しました。内容充実を図り今後も運営を継続していく方針です。2026/1期は機関投資家等とのIR面談(オンラインミーティング含む)を3回実施しております。その他株主様からのお問い合わせに随時対応しております。 |
| ●当社ホームページ拡充    | 非財務情報等の充実、海外子会社の情報発信拡充を計画しております。   |
| ●将来的な経営戦略情報の開示 | 中期経営計画など、将来的な経営戦略の開示を課題として認識しております。開示に向けた検討を引き続き進めてまいります。  |

## 3 改善に向けた方針、目標

### (3)株主還元の充実

| 取組と目標(25年6月公表)  | 進捗状況、今後の対応   |
|---|--|
| <p>●株主配当</p> <p>資本効率向上を図る観点から財務の健全性を維持しながら積極的な還元努める</p> | <p>連結配当性向は2026/1期には25.3%まで上昇し、2027/1期も30.4%を計画しております。</p> <p>また今後の安定的な利益配分の実施をより明確にするため、定量目標(連結配当性向30%を下限目安)を設定いたしました。</p> <p>配当方針の変更につきましては本日(2026年6月9日)公表いたしました「配当方針の変更に関するお知らせ」をご覧ください。</p> |
| <p>●自己株式買付の実施</p>                                       | <p>2026/1期においては164,800株(99百万円)を取得いたしました。</p> <p>今後も資本効率の向上を目的に適宜実施を検討していきます。</p>   |

## 4 注意事項

この資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載されている情報は作成時点のものであり、不確定要素を含んでおります。

従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願いいたします。